相談事例④

長期間の不登校男子生徒。

卒業も控える中、具体的になにをどうすすめていけばいいか分からず困っている

●**対象児童生徒**：中学３年生　男子

中学１年の頃から不登校になり、その後家庭の事情で２回の転校。家でのゲームが中心となり、生活リズムも崩れている状態。登校意欲、学習意欲が低く、他者との関わりも遮断している状況であった。

●**スクールカウンセラーの取り組みと児童の変化**

２年生３月

担任、養護、スクールカウンセラーでケース会議

↓

５月

スクールカウンセラーの家庭訪問実施

↓

１２月

福祉的サポートも視野に新たにケース会議

〇前学校情報も少ない中、保護者に家庭での様子を聞きながら、本人の特徴を理解する。長期間不登校であったため、登校復帰はすぐには難しい状態

〇継続的に担任が家庭訪問をしていたため、スクールカウンセラーも同行していく。保護者面接を継続しながら、まずは、顔と名前を覚えてもらうことから開始

〇夏休みを利用し、担任が学校に呼ぶ。２日ほど学校の玄関まで来られた

〇学校の中で役割分担をし、担任は進路について、スクールカウンセラーは本人の状態確認のため、家庭訪問を継続して行っていった。

〇卒業後の進路も視野に検討。スクールソーシャルワーカーとも連携し、保護者に福祉的サポートを紹介。地域につなげていく方向で保護者と確認

●保護者みなさま、学校の先生方へ

子どもが長期間不登校であるけれども、何から手をつければいいのかわからない。子どもと向き合いたくない気持ちも正直ある・・・。そんな時は、一度スクールカウンセラーに相談をしてみてください。保護者の方、学校の先生方の意見をお聞きしながら、一緒に子どものサポートをしていきましょう。また、学校復帰が難しい場合は、必要に応じてスクールソーシャルワーカーとも連携し、地域の他機関も利用しながら、福祉的サポートの情報も紹介することができます。